

## リレーメッセージ第3回

大森善郎氏（北高 27 期/理数科 6 期）

### 「囲碁のプロ・アマ戦に協賛し、日本の若者を応援」 ～海外駐在の会社員から、起業して教育の世界へ～

私の父親は船乗りでした。船といっても、イランやイラクなど中東諸国と日本を行き来する石油タンカーです。従って海外航路から日本に帰国する父親に会うのは3ヶ月に一度のこと。母親に手をひかれ24時間かけて夜行列車で旅をして、横浜・新潟など石油コンビナートのある港に、父親に面会に行く生活でした。父親は海外から原色の美しい蝶々の標本をお土産に持って帰ったり、エキゾチックな外国の街の写真を見せてくれました。そして、いつしか私は（ボクも世界を見たい!）と夢見るようになりました。



大学を卒業し、就職するとき、安定した大会社と海外駐在が囑望される小さめの電機メーカーに受かりました。どうしても海外に行きたい気持ちが強かった私は、周囲の反対を押し切り、小さな会社を選択しました。会社員になっても語学学校に通うなど努力を積み重ね、アメリカ・ヨーロッパに5年間の駐在をし、世界中を駆け巡る夢をかなえることができました。30才で外資系のフィルムメーカーに転職し、責任ある仕事を与えられ、充実した日々を過ごしていました。

しかしフィルム写真の時代は終わりを告げました。デジタル化に乗り遅れた会社からの早期退職のオファーを受け止めるしかありませんでした。これからの人生をどうするか、考えました。このまま新たな転職を繰り返すのか…それよりも（自分のやりたいことにチャレンジしてみたら）という心の囁きが消えませんでした。そして、自らの夢をつかんだ経験を活かし、今度は「若者の夢をかなえるお手伝いをしたい」と考え、教育の世界に転身したのは40才の時でした。

最初はフランチャイズの進学塾として起業しました。子どもたちと触れ合うのは楽しい。でも、無理に「勉強をさせる」ようで、なんだか自分の性に合わない、と感じる月日。そんなある日、通信制高校から「サポート校」をしないかという誘いがありました。話を聞くと、様々な葛藤を抱えた生徒が最後に笑顔で卒業するのを見送る仕事。これこそ自分の天職!と感じました。

株式会社ワイズアカデミーとして起業しました。世界で活躍する若者を育てたい、若者（Youth）に夢を与えたい、と起業した善郎（Yoshiro）の教育施設、それが Y's Academy（ワイズアカデミー）です。通信制高校で学ぶ生徒は、プロスポーツや芸能界と学業を両立したり、それぞれの悩みや夢に向き合って精一杯に生きています。この若者たちに「あたたかい居場所」を提供し「自立心と思いやり」を育てています。

## ー 新たな夢、囲碁の世界でも若者を育てる ー

囲碁の日本棋院に協賛し、2019 年からプロ・アマの十代の若者が競う棋戦「ワイズアカデミー杯」を開催しています。

### こちら

 ワイズアカデミー杯の公式サイトを是非ご覧ください。

以下は私の挨拶文となります。

### < ご挨拶 >

囲碁界では、かつて日本が、世界をリードする中心的存在でした。それが今や海外の後塵を拝しています。大森は、かつて日本が世界の中心だったエレクトロニクスのビジネスに20年も関わりました。囲碁もエレクトロニクスも課題は共通です。「若者を育てる」こと無くして、将来の発展はありません。

日本棋院では小学生までのプロ採用制度を新設し、仲邑菫初段が史上最年少の10才でプロ入りし、初勝利は新聞の1面トップ記事になるほど注目を集めています。囲碁ブーム復活の機運が高まった今こそ、世界トップ棋士を目指す子どもたちをサポートする絶好の機会です。

ワイズアカデミー杯という新たな棋戦に協賛させていただくことは「世界で活躍する若者を育てる」共通の理念の実現であり、至上の喜びです。サッカーのワールドカップで、日本の選手・応援団は「きれいに清掃する」ことで世界から注目されました。囲碁の世界においてこそ、日本がマナーも強さも世界トップに輝く、その日が来ることをワクワクしながら期待し、応援しています。

(2019 年 9 月 30 日)